

【概要・目的】

民間施設への木造化の普及を図るため、低層非住宅向けの長スパン等に対応可能な新製品を使ったモデル建築物を整備し、見学会などにより普及を行い、木造施設を提案できる建築士を育成する。
また、県産木造住宅で使用できる内装材を開発し、県産材の新たな需要を拡大する。

平成 29 年度の当初計画 (P)

1. 低層非住宅の木造化の推進

- (1) 新製品（SWP、重ね透かし梁、A型トラス、壁ラーメン）を活用したモデル建築物の整備（3施設）
 - ・3施設：旅館、商業施設など
- (2) 高知県林業活性化推進協議会による非住宅建築物の木造化の推進
 - ・新製品のトータルコストや施工性の調査
→モデル施設における新製品の設置に係る状況調査
 - ・製品の改良
→調査に基づき改良を行い、製品の磨き上げ
 - ・内装材等の開発
→インテリアデザイナーと木材加工業者等と連携した新製品の試作
- (3) 県内外への販売促進
 - ・土佐材パートナー企業、協働の森づくりパートナー企業等への販促活動

計画を進めるに当たってのポイント

- ・モデル建築物は、新製品の施工性と改良点に留意して建設を行う。
- ・非住宅木造建築に係る建築士の技術力の向上

平成 29 年度上半期の取り組み状況 (D)

1. 低層非住宅の木造化の推進

- (1) 新製品を活用したモデル建築物の整備
 - ・柳町ビル（SWPパネル使用）（7月着工）
 - ・四万十町旅館 基本設計（重ね透かし梁使用）
- (2) 高知県林業活性化推進協議会による非住宅建築物の木造化の推進
 - 事業計画の協議（4/26, 5/24）
 - 新製品（H28 開発）のトータルコストや施工性の調査項目についての協議（6/15, 7/21, 9/9）
 - 内装材の開発
 - ・検討会, WG（6/15, 7/21, 8/1, 8/8, 8/21, 9/13）
 - ・開発商品の絞り込み・3品（9月予定）
- (3) 県内外への販売促進
 - ・冊子（H28 作成の事例集・非住宅木造化の手引）の配布
高知県建築士会等へ2,000部配布
 - ・J T（CSR 推進部）のCLT施設の見学、打ち合わせ（4/28, 5/26）
 - ・土佐材パートナー企業意見交換会にて、冊子の配布（6/7 香川, 6/22 大阪, 7/14 東京）
 - ・協働の森の参加事業者へのCLT等の紹介（7/26～28, 16社）
 - ・地方創生の実現に向けた包括協定の締結企業へのCLT等の紹介（6/13～16, 21, 5社）
- (4) その他
 - ・林業大学校建築課短期課程 木造建築講座の開催（卒業生37名）

見えてきた課題・改善策と第下半期の取り組み (C, A)

見えてきた課題・改善策

- 1. 高知県林業活性化推進協議会による低層非住宅の木造化の推進**
- 新製品のブラッシュアップ
⇒新製品のモデル建築物への施工を含めたトータルコストを把握し、競争力の高い製品へと改良する

下半期の主な取り組み

1. 低層非住宅の木造化の推進

- (1) 新製品を活用したモデル建築物の整備
 - ・柳町ビル 完成（SWPパネル使用）
 - ・四万十町旅館 実施設計・完成（重ね透かし梁使用）
- (2) 高知県林業活性化推進協議会による非住宅建築物の木造化の推進
 - ・モデル建築物 設置に係る状況調査（人役調査・製品の改良）
 - ・モデル建築物 構造見学会の開催
- (3) 県内外への販売促進
 - ・土佐材パートナー企業、協働の森づくりパートナー企業等への販促活動
 - ・全国及び首都圏建築関係団体等への提案
- (4) 商品の開発
 - 内装材の開発
 - ・設計（10月）
 - ・試作品の製作・試験及び課題の洗い出し（11月）
 - ・ブラッシュアップ（12月）
 - ・WOOD コレクション（モクコレ）東京にて展示→評価（1月）
 - ・ブラッシュアップ（2月）
 - ・パンフレット作成（3月）
 - 今後の商品開発について検討（高知県林業活性化推進協議会）

【平成 31 年度末の目標 (H29 到達目標)】

1. 低層非住宅の木造化率（棟数） = H31：34%（H29：32%（H26：26%））

【直近の成果】

1. 低層非住宅の木造化率（棟数）：30%（H28実績）